

明治元年九月二十二日より明治元年九月廿五日まで

P8310790right

木村屋於夕餐を喫し、右案内者馬方等へ心付遣す、前書富田高野船頭給等の案内並馬方方等へも同様心付遣す、入本^ニ第八時頃同所金七船へ乗込無程出船

廿三日酉 薄晴夕雨

第十一時前深川へ着船「風様不宜、船脚遅に同所より上陸、荷物は孫蔵に才領せしめ船しいたす、両国にて午飯

(帰着) 午下帰着孫蔵「実姓氏は竹沢廣吉と申者也」には手当を遣し帰宅せしむ、礪川より姑と長次郎来り、同家船積

荷等の用意いたし居る、同人並承持方へ一杯の^{□□}遣し長次郎は晩食して帰る、此以下は不在中の雑事也

屋代惣わ[□]同道来り旧来の積談、偽^ニの和談一條の儀、喃^(*)に申聞し旨、近日の内挨拶申遣し積りに

須崎常来り、板倉屋預金一条の儀なお咄し有し旨、藤^ニ山隠居来りし旨、寺山佐^ニ来り

同人は御当地に

止住し旨也、大塚老媪来り、駿州移住の趣也、贖^心はなむけ)として三方遣せし旨去る廿

日より匠工鳶職等を

P8310790left)

「一町田耕来り横浜移住の儀、^{□□}有し^ニ、尤家内一同不在に付右を申置し趣」

して表の方座敷稻荷社等取毀しむ、旧中小姓源一郎来り、小品持来せし旨、本夕駿州

五郎次^(*)方より雁書届く、来月中旬頃迄に家族共引取趣申来る

廿四日戌 濃陰

日野根へ屋敷凶並同短冊四枚為持遣す、小梅村植木屋某来り、抱中せ^ニ[□]譲り渡し紹介いたす、略々治定図面等貸渡し遣す、笠原常来る一杯を勧む、匠工鉄へ旧券「残金四円有し」を呉遣す

廿五日亥 晴

板倉屋預金の儀に付、山田屋清方へ休左衛門を遣し、其趣向を問しむ、永持隠居儀巢鴨山本へ行き[□]趣に付

過日治左衛門より託せられし品を頼み届る、此度帰着に付右山本へ謝に行き携品あり享せらる、(改元) 山本長来る、本日より出勤の趣なり、蕎麦を設く此程明治と改元有し旨前同人より承知

*0:五郎次は旗本永持享次郎の養子か?

*1:喃(なん)へらへらしゃべる。もしもし(呼びかけの声)

[□]印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。